湘南医療大学　ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　看護学科
名　前　松永　雄至
作成日　20260430

1.　教育の責任

私は、本学の教育活動に関して、次に述べる科目や教育活動を担当している。まず、担当する科目は、ナーシングプロセスⅠ（必修、2年次生対象）、ナーシングプロセスⅡ（必修、3年次生対象）、ヘルスアセスメントⅠ（必修、2年次生対象）、ナーシングスキルⅠ（必修、1年次生）、ナーシングスキルⅡ（必修、2年次生対象）、保健医療情報学（選択、2年次生対象）、看護基盤実習Ⅰ（必修、1年次生対象）、看護基盤実習Ⅱ（必修、2年次生対象）などである。委員会活動は、看護学科内の実習委員会、国家試験対策委員会であり、主に「臨地実習における看護スキルと卒業時の到達度」の収集と活用方法の検討に関する業務、国家試験に向けた3年次生の学修支援を担当している。また、3年次生のチューター教員として18名の学生を担当し、出席状況や学習状況、学生の抱える悩みについて定期面談を行い、加えて日常的に声掛けを行いながら関わりをもっている。その他、入学前の学生を対象とした入学前教育支援や看護学科の図書委員、今年度から6S 委員として役割が加わった。

2.　私の理念・目的

1)　私の理念

看護師となるためには、専門的な知識や技術、専門職にふさわしい態度を身に着けなければならない。入院患者を受持つ病院実習は、限られた時間の中で、患者との信頼関係を構築し、情報の収集分析、看護問題の抽出、看護計画の立案、計画に基づいた実施という一連のサイクルを実践する。学内演習ではモデルや学生同士での技術実践であったが、病院実習では本物の患者に看護技術を提供しなければならない。これまで学内で培った知識と技術を統合して行う必要がある。

病院実習では、慣れない環境の中で緊張を感じながらも、自ら立案した看護計画を受持ち患者と一緒に看護目標を設定し、一緒に実践しながら、患者の回復を共に喜び、看護を実践する楽しさ、面白さを感じられるような体験ができるように指導することを大切にしてきた。もちろん看護を実践する楽しさ、面白さだけではなく、実践した看護を振り返り、学生自身が新たな課題を発見し、学びを継続できることも大切にしている。

学生には、日々の学修に主体的に取り組み、実習では知識と技術を統合し、看護を柔軟な発想で実践することを期待している。

2)　理念をもつに至った背景

私の教育活動の原点は、臨床現場にある。臨床経験のほとんどは、集中治療室（以下、ICUとする）であり、そこで5人の新人看護師のプリセプターとして、さらに間接的に指導した新人看護師を含めるとより多くの新人看護師教育に携わった。私自身も新卒で ICU を希望し配属された。いざ ICU に配属されると、ICU で求められる知識や技術の高さ豊富さを痛感し、実習では受持つことのなかった重症患者を目の前にして、プレッシャーに押しつぶされそうになった。ようやく一人前に仕事ができるようになったと感じていた3年目に、初めてプリセプターとなった。新人

看護師を指導する中で、指導の根拠の曖昧さを痛感し、人に教えることの難しさ、一方で面白さも感じた。3年目に初めてプリセプターとなってから、新人看護師一人一人の個性を把握し指導を行ったつもりだが、このような経験を5人の新人看護師に対して得られたことは貴重であり、結果として、看護基礎教育課程において教育を行う道を志すきっかけとなった。

ICU における看護とは、重症者に対する濃厚な看護であり、疾患に対する理解、治療に対する理解、医療機器に対する理解、そして患者に対する理解など様々な知識を必要とする。生と死を身近に感じる職場で、様々な職種の専門家と共に医療、看護を提供できたことにやりがいを感じていた。辛く厳しい環境の中においても、楽しさ、面白さを感じられる看護師を育てたいと考えている。

3. 教育の方法・戦略

主に、担当している講義と実習に分けてまとめる。

【講義】

私は、今年度ナーシングスキルⅡにおける「検査・治療を安全かつ正確に行う技術」、保健医療情報学の「病院情報システム、電子カルテシステム、オーダーエントリーシステム」を担当する。私の講義を行う上での工夫は、講義は教員から学生に対して一方向となりがちであり、加えて 90 分間集中し続けることは難しい。そのため、学生が講義に参加できるように質問や発表する機会をできるだけ設定している。その際、学生には何らかの回答、無言にならないように発言を促している。単に聴講するだけではなく、講義を聴きながら、自ら考え深められることを期待している。また、ある講義では、事前学修課題、課題を基にグループワーク、グループワークを発表し、最後にまとめを行った。事前課題の段階から、ある程度自由な発想で探求し、最終的には実現可能性を考えながら意見を集約した。

別の講義では、私の臨床経験や家族の経験談を講義内容に合わせて伝えることで、話題を身近に感じ、興味をもてるように組み立てている。講義資料は、パワーポイントを用いているが、教科書を基本とし、内容が不足する場合は他の参考図書などから引用しながらも、できるだけ教科書を使った学習ができるように組み立てている。

【実習】

実習場面における指導教員としての役割は、実習要項にある目的・目標を達成できるように実習指導者と調整し、また受持ち患者と学生双方の安全を確保することである。実習では、受持ち患者との関り、看護の実践、看護師をはじめとする専門職との協同や看護過程に沿った看護記録の記述が求められる。短期間の実習を有意義なものとするために、事前学習の中で受持ち患者情報から疾患、症状、治療について調べ、予測される看護技術を十分に練習する。加えて、実習指導者に看護技術を説明する際に詳細な手順書が求められることから、その準備を指導している。貴重な体験の機会が見学で終わることがないよう、たとえ一部介助でも、学生が指導教員や実習指導者と共に実践できる機会を得られるように、早期から計画の必要性を指導し、実習指導者にも協力を要請しながら調整している。

4.　学習成果

【講義】

1）学生からのリアクションペーパーに寄せられたコメント （肯定的なコメント）

・事前学習で調べてきた情報をもとにグループワークを行い違う意見が多く出た為自分が調べてきたものよりもかなり深い学びとなりました。

・同じことを調べているにも関わらず、似ているところや違うところがあり、同じ看護師を目指していても違うと感じた。将来、考えた可能性やリスクがあり得ると思うので、可能性に心を躍らせながら、リスクに今から対策していきたいと思う。

・私たちが扱うことになる情報の重要さについて、改めて学んだ。

・結論を出すことが難しかったが、電子化についてメリットデメリットや、逆に紙媒体や人主体の方がいいことについて考えることが出来て面白かった。

（否定的なコメント）

・特になかった。

5.　改善のための努力

・昨年度に続き担当した科目であったが、時間数の変更により構成を大幅に変更した。学生のリアクションペーパーの内容を見ると好意的な感想が多かった。ディスカッションの内容に留まらず、グループワークの方法や進め方について手ごたえを感じている様子であった。

・授業評価アンケート結果を確認し、改善点を明らかにしたうえで、次年度以降の講義内容を検討する。

・今回は講義のリアクションペーパーであったが、臨地実習についても、授業評価アンケートの結果から、改善すべきところがないか、指導者との調整が可能なのかを精査し、来年度以降、実習施設との会議で検討していく。

6.　今後の目標

【短期目標】

担当した講義・演習を振り返り、学生や教員から寄せられた意見を参考にしながら課題を検討し改善したい。講義では、学生の興味関心を得られる内容をより検討し、講義に主体的に参加できるように、講義・演習の進め方に改善ができる部分がないか検討したい。看護基盤実習Ⅰ・Ⅱは、主に病院での指導を担当している。元々看護師として病院で勤務してきた経験や、他大学での病院実習を指導してきた経験から、病院実習の指導には手ごたえを感じているが、学生の学びにつながるようにどのような指導をすべきか実習指導者と調整できることはないか検討していきたい。

【長期目標】

基盤共通看護領域に異動して2年が経過し、基礎看護学科目の一部の講義・演習を担当している状況である。いずれ科目責任者となれる能力を身に付けるため、科目責任者である教員の業務の進め方、担当教員へのサポートを学びたい。また、2 年続けて、看護基盤実習Ⅱを主に担当した。看護基盤実習Ⅰ・Ⅱは、一斉に100数十人が臨地実習を行うため、看護学科の多くの教員が関わる実習となる。学生の学びを円滑に支援できるように、また、教員も指導しやすい実習環境を調整することが目標である。

【添付資料】

1, シラバス

2, 講義資料

3, リアクションペーパー